

図画工作科における題材に関する私の実践 —子どもの実態にあった題材を探す—

林 正 夫

子どもにとって、図画工作科は楽しい時間である。指導者は子どもに年間指導計画に沿い、様々な表現活動の指導を試み実践している。どの教科指導も事前の準備計画は必要であるが、図画工作科では、子どもの表現活動を内容としており、そのためには、題材の工夫とそれに見合った材料用具等の準備が必要である。拙稿は、指導教材となる題材の扱い方の工夫事例を取りあげ、子どものよさが発揮される表現活動のあり方を探すことを目的としている。そこで、学習指導案の作成の仕方を基にして、造形への関心意欲を高める指導のあり方と題材の考え方を探してみたい。

キーワード：子どものよさ、造形への関心・意欲、題材の考え方

1. はじめに

図画工作科では子どもの実態を見据えて育てたい子ども像を描きながら、題材の扱い方の研究を深めている。教材研究のひとつの仕方に、子どもの学習過程を指導者が実体験しながら考えていく方法がある。この場合、材料用具の扱い方における子どもの様子をつかみながら、子どもの実態に合った題材を考え、学習指導案を作成する手掛かりを探っていくことができる。

様々な研究発表会や実践発表会に指導者として参加することがある。発表や実践内容は参考になるすばらしい内容のことが多い。また、研究発表会では学習指導要領の方向や内容にまつわる実践研究・授業発表等、目を見張るものがある。私にとって、大変興味深くあるものは「題材観」や「評価」を内容とするものである。指導者研究会においても「実技指導」とともに先生方の要望も多い。ここでは今回、「題材観」につながる「子どもの実態にあった題材探しのあり方」について視点を当てて試案を述べてみたい。

学習指導案を考えるにあたり、題材観や児童観、指導観の内容を関連させて題材設定理由を作成するのは当然であるが、とりわけ子どもの実態にあった題材の策定にあたっては、該当する子どもの様子や指導者としての願いを基にしている。私は図画工作科の指導者は、「色と形」に興味を持ち、よさやおもしろさを感じることに基本にあると思っている。また、子どもの表現活動から子どものよさを見つけ感知することが基本にあると考えている。

これから述べようとしている内容が子どもを指導する先生の、「色と形」の「よさ」を味わい考えるおもしろさへの気づきにつながればと願っている。

2. 子どもの実態にあった題材を探す

- (1) 子どもの「よさ」と「らしさ」を知る
- (2) 主体的表現活動を目指した実践事例
- (3) 題材名を工夫してつける

(1) 子どもの「よさ」と「らしさ」を知る

図画工作科の教科目標には「感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうようにする」とあり、知識や技能は、「つくりだす喜び」とともに習得され、さらに活用されることで、確かに身につく、発展や応用ができるようになるとされている。

色や形をつくる、色や形と遊ぶ等には、子どもでも大人でも誰でもできる活動である。図画工作科の学習の楽しさや面白さは、子どもが思うように色や形を作ったり、色や形で遊んだりすることができる場所にある。子どもが夢中になって学び楽しめる、ともに学び成長する学習である。

しかし、表現活動に、自分らしさがあり、表現活動がおもしろくて熱中し持続できるかどうかは、学習題材や素材との関係があったり、指導者の授業展開が問われることが多い。

そのために、子どもが夢中になって学び楽しめる、ともに学び成長する学習のあり方を求めて、指導者は日頃より研究実践に取り組んでいる。とともに児童理解を基にし授業展開を行っている。

図画工作科の学習指導案では題材設定理由の児童観で学年や学級児童のよさが書かれている。日々の生活における子どもの様子や月行事や教科学習に取り組む姿勢、仲間作り等の中からとらえ書かれている。

指導者は学習指導案を考えるにあたり、子どもを理解し、よさを見つけていく、そのよさに共感する取り組み、子どもの実態を把握し分析する必要がある。指導者によっては図画工作科そのものや表現活動の中身に対する興味関心の問いかけをまとめたり、数値化・記号化し表示している。あるいは年度に渡る子どもの表現活動に取り組む様子や変容に触れ述べたり、図画工作科指導の実践事例や表現（鑑賞）活動における子どもの心や感覚の育ち、友達とのかかわりを述べている。そのためにも指導者は子どもに関する資料を探したり、子どもの生活を記録したり、子どもの遊びの様子を観察したい。さらに子どもとともに遊んでほしい。

指導者が子どものよさを理解し授業に取り組むと子どもの学習姿勢が積極的になる。私も子どものよさを見つけた理解・共感し指導法を考えるようにしている。

図画工作科の指導では色と形における表現においてその子らしさがあるか、色と形に対して表現鑑賞意欲はどうか、あるいは適した材料用具を使い色と形をつくっているか、自他の表現鑑賞場面でコミュニケーション能力が培われているか、色と形を通して友達づくりもできているか等幅広く教材研究がなされている。どれも授業実践では大切にしたい基本事項である。

色や形を作る、色や形と遊ぶ等は、子どもでも大人でもだれでもできる活動である。うまくできているとか、思ったようにできているとか、自分らしさがあるか等自分なりの納得が得られるとさらに面白く興味深く取り組むようになる。

(2) 主体的表現活動を目指した実践事例

表現活動には、造形遊びをする活動を内容とするものと、絵や立体、工作に表す活動を内容とするものがある。指導者としては子どもの主体的な活動を目指して、年間指導計画にある題材を参考にする場合もあり、時には新たな題材を設定し研究実践をする場合もある。ここでは、私の2つの実践事例を紹介し、子どもを指導する先生に、「色と形」の「よさ」を味わい考えるおもしろさにつなげて頂ければと考えている。

【事例1】子どもに関心のあるニュースから（低学年）

小惑星探査機「はやぶさ」が奇跡の地球生還を遂げる。さらに小惑星「イトカワ」の微粉末があるというニュースが2010年話題となる。このような出来事は大人にも子どもにも、実現不可能なことが叶い夢のような中身であった。日頃から指導者として、子どもには夢をもたせたり、願いに向き合わせている。このストーリーを図画工作科の題材に取り上げられないだろうかと考えることにした。また子どもは、花の水やり、植物栽培、緑化活動を体験し、図画工作科では、夢一杯の花を描こうや好きな花と遊んだよ等の題材もある。ここでは、月面成分から持ち帰った微粉末に花の種があったとし、実践した題材「世界にひとつしかない花」（低学年）（中学年の扱いも可）を述べてみたい。



「世界にひとつしかない花」
—参考作品*大学2回生—

I. 導入時の展開

〔子どもの主な活動〕

はやぶさ生還のビデオ¹⁾を見る。

〔指導者の主な働き〕

白衣等の服装を着用し、次のような手紙を読む。黒板に掲示し示す。

「生還したはやぶさの持ちかえったカプセルの土の粒に花の種（目に見えない位小さな粒）が付いて来た。研究所で育てると花が咲き、種を採ることができた。咲く花は一つとして花や葉の形に同じものがなく、よく育つ。○組のみなさん、種を植えて育ててください。世界にひとつしかない花を咲かせましょう。不思議な花が育つ様子を画用紙に描こう。」

Ⅱ．表現鑑賞の展開

子どもの主な活動（学習の流れ）	指導者の主な働き（指導の展開）
略＊1枚のキャップに点を描き、点とつないで線を描く。	略＊描く線が少しずつ伸びていくことを話す。
略＊いろいろな線を描いた1枚の牛乳キャップを画用紙に置いて貼る。	略＊試しながらキャップを置く子どもの様子をほめる。
略＊思い思いに花を描く。花の世界を描く。遊んでいる様子を描く。	略＊子どもが描く色や形に共感する。 略＊鑑賞と表現の一体化の工夫をする。

Ⅲ．指導上の留意点

指導者として子どもの表現に共感し、一人一人の子どもにあるよさを見つけたい。描く色や形に子どもの思いや願いがあり、子どもからのお話やつぶやきを聞いて受け止めたい。指導者の共感する姿勢は、学年学級の子どもの自尊感情を育てるための積み重ねになっていく。

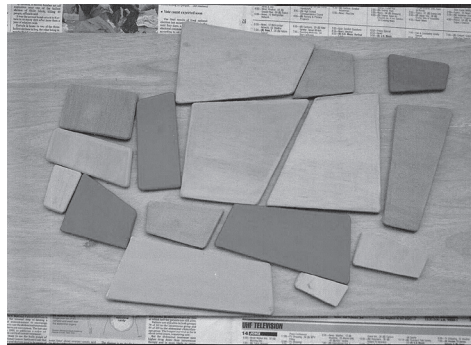
一枚の画用紙には思い思いの花が描かれている。学級児童学年児童の描いた花の絵をどのように子どもに鑑賞させるか指導者の工夫が必要となる。

例）展示方法や場所 —— パノラマ形式で作品をつないで貼る。廊下階段の壁面に貼る。

鑑賞カードの活用 —— 作品とともに貼る。作品と鑑賞カードをビデオレターとして編集する。

【事例2】できる形がおもしろいと感じることから（高学年）

新聞紙を丸めてボールにしている子ども。折って頭にかぶって遊んでいる子ども。ちぎってびりびりして遊んでいる子ども。子どもには新聞紙ひとつでも遊ぶ世界がある。その中で子どもは色や形のよさを見つけたり、色や形を思うようにつくっている。ここでは、一点集中指導^(注)2)の角度から、実践した題材「33パズル」(中学年)を述べてみたい。パズル(木の工作)はまずはのこぎりという用具を使い作ることが子どもの興味・関心・意欲を高める。作った形(ピース)一つ一つに形のおもしろさがある。そして、作った形を組み合わせて遊ぶことで「できる形がおもしろい」と感じる。



「33パズルをつくって遊ぼう」
— 参考作品＊大学2年生 —

(注) 一点集中指導 (*図画工作科学習を活発にし、新しい造形性を発見するための手立て)

- ア. 材料(素材)の特性を知り、発達段階に応じた用具の扱い方の基本を造形活動のなかで確実に習得させる一点集中指導による学習をする。
- イ. 材料・用具にある特性に感動を覚え、製作意欲を高め、つくることの楽しさを知らせる。
- ウ. 子どもの心情にあった遊びを取り入れた学習をする。

一点集中指導による図画工作科学習 (*一点集中指導とそのねらい)

- ア. 子どもの発達段階に合った一つの題材のなかで、子どもに一つの用具の扱い方の基本を確実に習得できるように指導する。
- イ. 習った用具を使って興味ある題材のなかで目的意識をもち熱中して製作するように指導する。
- ウ. 習った用具を使いつくる楽しさ・喜びを体感させる。
- エ. 習った用具を使い、手につくり出す力を育て自信と喜びを感じさせる。

I. 導入時の展開

〔子どもの主な活動〕—— のこぎりで板を工夫し※切る。

「 思うように切ることができる —— 板面に引いた直線を切ることができる。

※ 手ごたえを感じて切る —— 板を試しながら切り、自信を持つ。

「 形の面白さを見つける —— 自らが切った板を使い、〇〇(本時はパズル)をつくる。

〔指導者の主な働き〕—— のこぎりを使い板を切ることができるようにする。

「 のこぎりの使い方の指導の一例

・板を押さえる ・切り始めと切り終り ・引くときに力を入れる

自分で板を押さえて、一人で切るようにする。友達に板を押さえてもらい、板を切るよう

※ にする。

始めに切った形と次々と切ってできた形を見比べ、のこぎりの使い方の手応えを感じ取るようにする。

「 〇〇(パズル)をつくることで用具を使い、自らがつくりできる遊びの楽しさを味わわせる。

II. 表現鑑賞の展開 —— パズルで遊ぶ

一人一枚の板(60cm×30cm)は一枚でも十分に自分一人で作った形(ピース)を組み合わせ楽しく遊ぶことができる。また、友達の作った形(ピース)を混ぜて板の並べ方を工夫し遊ぶことができる。グループ遊びや学級遊びをし、自由に組み合わせで形を作っていくことで、「できあがっていく形が面白い」と感じることができる。

III. 指導上の留意点 —— 板への彩色は「特に原色を使用」

本題材は思うように板を切ることを試みることである。(時には板を切ることができるようにする。)

「一枚の板（60cm×30cm）に縦に3本、横に3本の直線を引く。

※ 板を縦に4つの形に横を4つの形に切る。

「一枚の板から16個のピースをつくり、できあがった形を組み合わせさせてパズルとして遊ぶ。

題材「33パズル」では彩色をあえて、切ってできた形に後からするようにしている。また、一色（原色）を選び、最初（1個目）の形に彩色していくようにする。次のピースから彩色も同色か、選んだ色（原色）で彩色するようにしている。板に思い思いの絵や模様を描いてから、のこぎりで切るという順番を取らずに、思うように板を切ることを試みるようにした。場合（指導計画の時間配当）によっては、彩色をしない場合もあるが、「あえて」彩色はピースを区別することができればよしとし、子どもには色づくりの工夫より、色並べの面白さを味わわせるようにしている。児童の実態によっては、1個のピースにワンポイントを描いたり、模様を書かせる等の手だてを取り入れることも考えられる。

（3）題材名を工夫してつける

指導する先生は、「はやくやってみたいな。」「こんなふうにしてみようかな。」等子どもの意欲関心あふれる表現を期待している。そのために「色と形」の「よさ」を味わい表現する題材や授業展開の研究をしている。その一つに、多くは導入時に示す題材名を考えるがある。例えば、「チョッキン」という題材名（先生が示す*チョーク板書・カード提示）の場合、子どもはちょっと（少しかな）、キン（音かな）、ちょっくん（はさみかな）等、題材名にある文字やことばから、驚きや疑問を感じ興味や関心意欲を抱き表現につながっていく。また「_____チョッキン」（*板書の最初は、はさみでを伏せて書く）や「はさみで_____」

（*板書の最初は、用具のチョッキンを伏せて書く）、「チョッキン チョッキン」（ことばを反復する）等題材名の示し方がある。あるいは「チョッキン」の文字を色分けし書いたカードをリズムカルに何枚も黒板に貼ってしめす方法もある。時には「チョッキン」の文字は見せずに、手作りの大型はさみ模型を指導者が持ち「チョッキン」と言って紙を切るしぐさを交える。あるいは「チョッキン チョッキン・・・」の音を注意深く聞かせたりする等いろいろある。ここでは題材名のつけ方について考えを述べたい。さらに、図画工作科教育法の授業から、学生（本学2年生）の考えた題材名も紹介したい。

①題材名のあり方とつけ方

I～Ⅷのパターンに分類してみたが、I～Ⅲのみ例を示すこととする。

I. 材料にある要素を基にし、膨らませたり、削ったりしてつける

例		題材名の例
クレヨンやパス	色をおいたり重ねたりしてできる質感から	かくれんぼ
絵の具	色のにじみやぼかしの様子から	春風吹いて
紙粘土、土粘土	粘土にある伸びるや丸まる、固まるの性質から	ペタペタゴッコ
紙素材、新聞紙、ダンボール紙	紙にある特性や造形操作の内容から	つんでつんで
接着剤や接合材料	ひつつけるやつなぐ特性や液体の様子（時間変化から）	まるまる変身
紙の箱、菓子箱、飲み物等の容器	紙や金属、プラスチック容器の特性から	びっくり顔
飲み物のふたやキャップ	ふた本来の機能や回転する独特の動きから	ころころコロッ
ひもや糸、針金	材質や結ぶ、つなぐ等の特性から	へんてこな形
板の切れ端や板材、棒、竹	材質の特性や素材の形状、回転要素、鳴る音の様子から	〇〇星

II. 用具の機能や形状からつける

例		題材名の例
はさみ	切る機能や内容から、質感から	ふたつに分けて
かなづち	釘などを打つ様子や出る音から	トントンすると
のこぎり	切る様子や切る機能から	ギコギコおもちゃ
電動のこぎり	切る様子や切る機能、試験試行の様子から	電のこ名人

III. 人の心や動きの様子や体の一部からつける

例		題材名の例
指や手	体の機能や様子から	色つけ遊び
顔やひげやかみ	大小の変化や膨張や凹み等から	大笑いの顔
写す影やできる足跡	できる影や残った跡の想像を膨らませて	楽しいかげづくり
心の中の気持ち、人の動きや人との組み合わせ	人の気持ちや様子から	おにごっこ

Ⅳ. 願う気持ちや夢を表す内容からつける

(題材名の例＊省略)

〔例〕

- ・ 花や虫、木立ち、自然、動物 等
- ・ 旅行や食べ物、遊ぶ内容
- ・ 大人になってからの夢や目標、職業、スポーツ選手、家族、友達 等
- ・ 遊ぶゲームづくりや回路、仕掛け

Ⅴ. 願うお話の筋や民話の感動場面を選んでつける

(題材名の例＊省略)

Ⅵ. 有名人や特技の持ち主になりきりつける

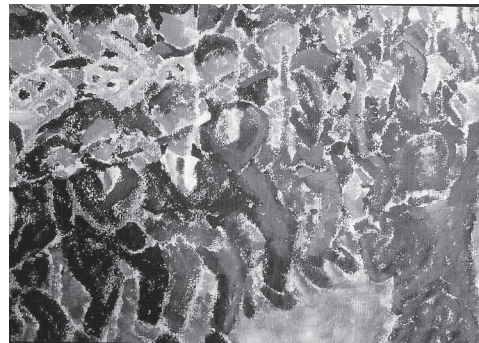
(題材名の例＊省略)

Ⅶ. 学校や地域行事、伝統伝承行事、祭りの中からつける (題材名の例＊省略)

Ⅷ. 他教科・領域や身近な出来事、感動・印象に残る出来事やニュースからつける (題材名の例＊省略)



「木となかよし (パスを使って)」
—小学2年生—



「大阪市音楽団の演奏」
—小学5年生—

②題材名を考える参考例 (本大学教育学部2回生が考えた題材名の一部＊順不同)

I. ポスター PICASSO ピカソ³⁾ (高学年) (平成22年度指導題材) より

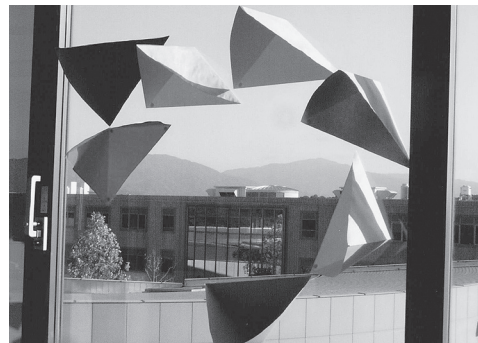
「ピカソ」「ぴかそピカソPicasso」「どんなピカソ」「私が見たピカソ」「ピカソ×私」「我輩はピカソである」「わたしもピカソ」「ほくもわたしもピカソ」「こんにちはピカソ」「ピカソのあとつぎになろう」「ピカソワールド」「ピカソ×〇〇 (〇〇は名前が入る)」「私は天才ピカソ」「君もピカソ」「ピカソになろう」「ピカソをこえよう」「ピカソ2010」「弟子入りピカソ」「君も天才画家」「2人のピカソ」「とびだせピカソ」「自己流ピカソ」「私がピカソになっちゃたあー」「おいつけ おいかけ ピカソの絵」「ひらめきピカソ」「ピカソにふれてみよう」「みんなのピカソ展」「ピカソ展覧会6年〇組」「ピカソの森」「ピカソミュージアムへようこそ」「ピカソの絵を自分なりに輝かそう」「I am PICASSO」「ピカソだらけの〇組美術館」「おしゃれピカソ」「私のピカソ音楽」「ピカソの世界発見」「ピカソ (ハングル文字)」「星の数ほどあるピカソ」「ピカソの見た世界」「ピカ ピカ ピカソー ピカ ピカ ピカソー ♪」

Ⅱ. キラキラわたしのかんむり（中学年）（平成23年度指導題材）より

「ふしぎな国のパーティーへ行こうーかんむりー」「ようこそふしぎな国へーかんむりー」「世界にひとつのかんむり」「わたしは強いぞーかんむりー」「かんむりつけて大変身」「誕生会に使うかんむりをつくろう」「七夕まつりのかんむり」「まほうのかんむり」「運動会に使うキラキラかんむりをつくろう」「おひめさまになるかんむりをつくろう」「クリスマスにかんむりをつけよう」「音楽界のスターがつけるかんむりをつくろう」「ありがとうお父さんお母さん（かんむりプレゼント）」「家族のかんむりをつくろう」「ありがとうをとどけよう（保護者プレゼント）」「〇〇王国のかんむりをつくろう」「かそうパーティーをしようーかんむりー」「新一年生がつけるかんむりをつくろう」「動物になるかんむりをつくろう」「かんむりをつけてあそぼう」

Ⅲ. 夢いっぱい〇〇（〇〇は参加者数）（高学年）（平成23年度指導題材）より

「わたしのゆめ」「私の〇年後」「夢をかこう」「夢いっぱい」「雲にのって」「夢ピラミッド」「あなたのゆめは何ですか」「〇〇してみたい」「ゆめあわせっこ」「夢〇〇（〇〇は参加者数）」「みんなの夢をつなごう」「おでかけはどこに」「なかよしの輪」「しあわせな夢はなぁー」「大きな船で世界一周」「アメリカに行くと」「わたしのしあわせ旅行」「未来のくらし」「スポーツだいすき〇〇」「かなえ みんなのゆめ」「〇〇に住みたいなぁー」「〇〇になりたいなぁー」「〇〇な生活」「未来のわたし」「世界平和みんななかよし」「空から夢 なぁーに」「宇宙旅行」



「ゆめ つないで ぐるぐる」
ー参考作品＊大学2 回生ー

4. おわりに

子どもにとって、図画工作は楽しい時間である。そうあるようにどの子どもにも指導者がしなければならない。そのために指導者に次のことを求め、今回は図画工作科における題材のあり方の一考察を小学校における子どもの指導経験を基にのべるようにした。

- ・まず子どもの「よさ」と「自分らしさ（その子らしさ・個性）」を知り、子どもを理解する。
- ・子どもの主体的表現活動を目指した指導のあり方を求める。
- ・子どもに合った題材名を工夫してつける。

子ども自らが学ぶ意欲関心を持ってする題材選定とその指導は、あまりにも研究対象が広く深い。単なる実践だけでは今回も限界を感じている。しかし、本拙稿には、図画工作科の題材を指導者が興味をもって取り組むために参考となることもあるのではないかと考えている。

2011年2月14日は大阪府各地で雪が積もり、子どもは積もる雪を集めて、雪だるまをつくった。仲良く楽しくつくる子どもにも学生にも出会い、冬の季節に見られる子ども造形のよさを

感じた。とともに3月11日から続く大震災津波を原因とする自然の力には恐怖すら覚えている。しかし、人が住む新しい町づくりが急務であり、災害に立ち向かう建造物や構造物、自然エネルギーの創造と活用のある住まいや乗り物等も考えていく必要がある。人は自然がどんなに厳しくても生きる、子どもも生きて学び、よさも感受性も培われていく。

図画工作科研究大会や授業研究会、指導者研修会では学ぶことが多い。年齢を問わず指導者によるすばらしい研究実践も多々ある。また若い世代の先生方による新鮮な感覚溢れる熱心な授業もある。しかし、指導者層の年齢構成の著しい変化もあり、指導研究をつなぐための課題も山積みしている。子どものよさと子どもを育てることを根底に、今後も私は新たな課題に向かって研究実践を続けたい。

【参考】

- 1) 「はやぶさ」奇跡の地球生還 (2010年TVニュースや報道番組・新聞記事)
- 2) 一点集中指導の研究 (林 正夫)
- 3) 形・色・イメージ+これからの図画工作 (日本文教出版) (P.124)